

生徒の生活領域における意識の実態調査について

生活指導部

- I はじめに
- II 調査項目について
- III 調査結果について A 統計
 B 説明
- IV おわりに

I はじめに

○ 学校教育において、「教科指導」が基本的に重要であることは論ずるまでもない。しかし、教育が人間の全体の相にかかわりをもつものである以上、人間形成における「生活指導」を無視することはできない。このようにして、教育においては、必らず「教科指導」と「生活指導」の両面を併せ考えてゆかねばならないこと勿論である。

「教科指導」はそれなりに明確な指導をなすことができると思われるが、「生活指導」においては、特にまとまった指導体系を求めることはなかなかできにくい。従ってその「生活指導」の内容とか範囲をハッキリと把握することはむづかしい。結局、「教科指導」以外の面は何でもすべて「生活指導」の面に入れられて、「生活指導」の内容が雑然としてゴタゴタとふくれあがるきらいが起こり勝ちである。

○ われわれは今回、生徒の生活領域における意識の実態を若干調べて、「生活指導」の一つの参考資料を求めることができるならば…………… という気持ちでその実態調査をした。勿論意識といってもそれは具体的生活に即して、またそれを通して現われるものである。それで、生徒の生活領域を一応家庭生活、学校生活、社会生活の3領域に分け、それぞれの生活領域における意識調査をしたのである。

○ 現代はあらゆる面でめまぐるしく変化する時代であり、その現実の姿を認識することも、未来を予測することも容易ではない。現代社会の特質は、産業社会化、大衆社会化という2つの流れのうちにみいだすことができるといわれている。現代人はこのような複雑な環境の中において、その生活に直接間接いろいろの影響を受けている。それらの中で、「人間への配慮の欠如」を教育の問題とすべきであるという点を強調したい。われわれはここにおいて、個人主義的意識は孤独感を生み、生活意識の空洞化をひき起こしてモラルを失いやすいことを知らねばならない。かくして、もろもろの人間関係への考慮の中から自己を認識し、全体性の自覚をめざすところのよき人間の育成に努力しなければならない。

○ 上記の3つの生活領域において、それぞれ20項目、合計60個の調査項目を設定した。この

項目の数は全く機械的に適宜にきめたもので特別のわけはない。調査項目の内容をどのようにするかが一番大事なことであって、調査目的をよく検討してその内容を調査項目にしなければならないことは申すまでもない。今回は昭和 50 年度全国付属連盟高校部会における生活指導部会提出の資料を得るために、この調査を行ったものである。何しろ第 1 回の調査であり、決して妥当な項目ばかりとはいえないが、一応次のように作成したのである。

I 調査項目について

その 1 家庭生活 (1～20)

その 2 学校生活 (21～40)

その 3 社会生活 (41～60)

以下のそれぞれの問いについて、あなたの考え方や行動に最も近いと思われる答を 1 つえらび、その記号を○印でかこみなさい。ただし、*印のついた問いについては、○印をいくつかつけてもよい。

(その 1) 家庭生活

	アンケートの結果 百分率
(1) 家族が一諸に暮していることについて、どのように感じますか。	(1)
イ 家族の者が知らず知らずのうちに、いろいろのことを学びとる。	イ 41%
ロ きゅうくつだが、困った時にはいたわり合い、助け合うことができる。	ロ 27
ハ 自由が束縛されるので、早く家庭より離れて暮したい。	ハ 5
ニ 別にどうとも感じない。	ニ 27
	無答 1
(2) 家庭生活をどのように考えていますか。	(2)
イ 家族員の経済的・物質的幸福を求めるために営まれる。	イ 9
ロ 家族員の精神的な安らぎと生活意欲の回復とを求めて営まれる。	ロ 62
ハ そこにおいては家族員相互が人間的愛情に強く触れることができる。	ハ 23
ニ そこにおける生活を通して、礼儀・作法などを学び身につけることができる。	ニ 4
	無答 3
(3) 「父の日」が設けられていることについて、どう思いますか。	(3)
イ たいへん有意義なことで、父親に感謝する気持ちをあらわす機会となる。	イ 19
ロ あっても別にことさうしようとも思わない。	ロ 43
ハ こんな日を特別に設ける必要はない。	ハ 25
ニ 何の関心をもっていない。	ニ 12
	無答 1
(4) 「母の日」が設けられていることについて、どう思いますか。	(4)

イ	たいへん有意義なことで、母親に感謝する気持ちをあらわす機会となる。	イ	25 %
ロ	あっても別にことさうしようとも思わない。	ロ	39
ハ	こんな日を特別に設ける必要はない。	ハ	24
ニ	何の関心をもっていない。	ニ	11
		無答	1
＊(5)	あなたの父親のどういうところを尊敬していますか。	＊(5)	
イ	教養があり学問を身につけている。	イ	27
ロ	家族に対して愛情や理解力があり、また人格者でもある。	ロ	35
ハ	社会的地位や経済力などがあって、豊かな生活をする力をもっている。	ハ	18
ニ	父親は、何はともあれ、やはり父親としてかけがえのない人である。	ニ	81
		無答	4
(6)	あなたは、どんな母親が最もものぞましいと思いますか。	(6)	
イ	高い教養があって社交的で、いろいろと社会的活動する。	イ	4
ロ	いつもやさしく、愛情深い心をもって家族のためにつくす。	ロ	66
ハ	父の仕事に温かい理解をもち、内助のつとめに努力する。	ハ	18
ニ	特に家計をうまく切りまわし、料理・裁縫などが上手である。	ニ	8
		無答	4
(7)	しつけについて、どのような親の態度をのぞみますか。	(7)	
イ	いつも非常に厳格な態度でのぞむ。	イ	3
ロ	厳格ではあるが、子どもの理解を求めようとする態度を忘れない。	ロ	38
ハ	意見をのべて注意を促すが、子どもの判断をつとめて尊重する。	ハ	45
ニ	子どもの自主性を尊重して、子どもの判断に任せている。	ニ	12
		無答	1
＊(8)	親孝行とは、どのようなことと思いますか。	＊(8)	
イ	ときどきお土産を買って来たり、贈物などをして親をよろこばす。	イ	7
ロ	親の考えにいつも反対しないで素直に従う。	ロ	4
ハ	日々の生活において、親に心配・手数をかけないように努力する。	ハ	59
ニ	自分の人生の将来を考えて、現在の自分のつとめに一生けんめいにはげむ。	ニ	64
ホ	その他のこと	ホ	20
(9)	あなたは、自分を親孝行な子どもであると思いますか。	(9)	
イ	親孝行な子どもであると思う。	イ	7
ロ	少しは親孝行な子どもであると思う。	ロ	24

ハ	親孝行・親不孝どちらともいえない。	ハ	46 %
ニ	親不孝な子どもであると思う。	ニ	23
10	兄弟姉妹が多い少ないについて、どう思いますか。	10	
イ	親が何かにつけ、兄弟姉妹を比較するので、一人の方がよい。	イ	3
ロ	兄弟姉妹が多いと、何かと分け前が少なくなるので、兄弟姉妹は少ないほどよい。	ロ	3
ハ	兄弟姉妹がいると、互いに相談にのったり、はげまし合ったりするので、多い方がよい。	ハ	56
ニ	別に何とも思っていない。	ニ	37
*11	敬老について、どのように考えますか。	*11	
イ	精神的にも身体的にも老化していくことをいたわる。	イ	33
ロ	人生の先輩であることに敬意を表し、長寿をいのる。	ロ	54
ハ	長く働いて生き、あとに何かのこしてもらったので感謝する。	ハ	15
ニ	人間は皆老化していくという共通の運命をもっていると感ずるだけである。	ニ	27
		無答	2
12	あなたは、「敬老の日」に何かしますか。	12	
イ	贈物をあげてお祝いする。	イ	6
ロ	それ以外のことをしてお祝いする。	ロ	8
ハ	お祝いすることもあるし、しないこともある。	ハ	21
ニ	特別には何もしない。	ニ	64
		無答	1
13	あなたは、老人（祖父母など）との同居・別居について、どう思いますか。	13	
イ	年令の差は考え方・感じ方・話題などのちがいにあらわれるので、別居生活の方がお互いのためになると思う。	イ	33
ロ	人間は年をとると、とかくうるさく、手数がかかり世話がやけるので別居した方がよい。	ロ	7
ハ	同居生活をする、と、老人の身辺をいつもじかに見届けることができるので、肉身の愛情を感じ、何かと都合よく、安心できる。	ハ	45
ニ	別居も同居もすべて、経済という条件次第だけで考え、きまる。	ニ	8
		無答	8
14	あなたの家庭で、相談したいことがあるとき、主に誰に相談しますか。	14	
イ	父 親	イ	7
ロ	母 親	ロ	37
ハ	兄弟姉妹	ハ	12
ニ	その都度かわる	ニ	39

		無答	4 %
15	いろいろ相談などで父親と話しをかわすとき、どのように感じますか。	15	
	イ よく話ができて、親しみを感ずる。	イ	25
	ロ 年令のちがいから、共通の理解がなかなか得られにくい。	ロ	22
	ハ いつも親の権威を意識しているようで、威圧的であると感ずる。	ハ	15
	ニ 特別何とも感じない。	ニ	34
		無答	5
16	あなたの家庭では、子どもの教育について一番多く発言するのは誰ですか。	16	
	イ 父 親	イ	28
	ロ 母 親	ロ	55
	ハ 祖父または祖母	ハ	4
	ニ 兄弟姉妹同志	ニ	9
		無答	4
17	あなたは将来、どんな家庭を営みたいと思いますか。	17	
	イ 妻は結婚後も仕事を持ち、夫は家事に協力する。	イ	9
	ロ 妻は家事に専念し、夫は仕事に専念する。	ロ	33
	ハ 必要があれば妻も職業につくし、夫も家事に協力する。	ハ	39
	ニ わからない。	ニ	19
		無答	2
18	あなたは、家の手伝いについて、どう思いますか。	18	
	イ 家族の一員として、するのが当然であり、かなりよくする。	イ	18
	ロ 手伝いたいが、ひまがないのであまりしない。	ロ	32
	ハ いいつけられれば、しかたなしにする。	ハ	44
	ニ 勉強するのが本分だから、まったく手伝わない。	ニ	5
		無答	2
19	家族に対してあなたがする、朝の挨拶について、どう思いますか。	19	
	イ いつも素直にできて、よいことと思う。	イ	24
	ロ した方がよいとは思うが、何だかてれくさくて多くはしない。	ロ	25
	ハ たまにはあるが、挨拶をすると気持ちがいい。	ハ	16
	ニ 肉身の間では、いちいち口に出してまで挨拶しようとは思わない。	ニ	34
		無答	3
20	あなたの家庭の夕食時の様子について、どう思いますか。	20	
	イ 揃って食べるので、たのしいと思う。	イ	57
	ロ 揃って食べるので、とかくうるさいことが多いと思われる。	ロ	10
	ハ 揃って食べないので、さびしいと思う。	ハ	13
	ニ 揃って食べないので、のびのびと自由でよいと思う。	ニ	14
		無答	8

(その2) 学 校 生 話

②① 朝、校内で、先生・職員・友人などに「おはようございます」或は、「おはよう」と挨拶することについて。	②①		
イ 誰にも気軽にできます。	イ	30	
ロ 人によって、日によってしたりしなかったりします。	ロ	43	
ハ した方がよいと思うが、少し恥づかしかったりしてしないこともある。	ハ	25	
ニ 殆んどしたことがない。しようとも思わない。	ニ	2	
＊②② 教官室・事務室・保健室などへ入室する時ノックをしますか。	＊②②		
イ 大ていはします。	イ	27	
ロ 扉が開いている場合はしません。	ロ	58	
ハ 時により、室によって、する時としない時があります。	ハ	33	
ニ 殆んどノックはしません。	ニ	15	
	無答	1	
②③ あなたは、昼食時間中に教官室などへ入室した時、先生が、食事申だったらどうしますか。	②③		
イ 急用でなかったら出直します。	イ	34	
ロ 室により、先生によっては、そのまま話しかけます。	ロ	51	
ハ 一切、気にしないで、自分の用事はすませます。	ハ	14	
	無答	1	
②④ 昼食は定まった時刻に、食べますか。	②④		
イ 殆んど定まった昼食時間(4限後)に食べます。	イ	73	
ロ 早く食べたり、遅く食べたり一定していません。	ロ	19	
ハ 殆んど、3限後などの昼食時間より前に食べてしまいます。	ハ	7	
②⑤ あなたの昼食は、どんな方法ですか。	②⑤		
イ 家からおべんとうを持参します。	イ	48	
ロ 大ていは、パン食です。	ロ	16	
ハ 大てい外食(麺類)です。	ハ	8	
ニ おべんとうを食べた上に、パンを食べるか、外食するかします。	ニ	1	
ホ 日によって、いろいろできていません。	ホ	27	
②⑥ 廊下や教室に紙屑などが落ちている時、あなたはどうしますか。	②⑥		
イ 殆んど見つければ、拾って屑かごに入れます。	イ	43	
ロ 掃除当番の時以外は、拾いません。面倒ですから。	ロ	24	
ハ 一向に、気がつきません。拾う気になったことはありません。	ハ	29	
	無答	4	
＊②⑦ 掃除当番が当てられた時。	＊②⑦		
イ 他の人がどうしようと、自分は真面目に自分の責任分担を掃除	イ	44	

します。		
ロ 友人が、例えば1人で掃除をしていたら、自分自身は当番でなくとも気の毒だから手伝おうという気になります。	ロ	37 %
ハ 友人がさぼって帰れば、自分だけでするのは、損だから自分もしないでさぼります。	ハ	32
ニ 殆んど、掃除をする気はありません。できるだけさぼった方が得です。	ニ	12
	無答	3
28 内ばきで外出することについて	28	
イ 定められたように内・外ばきの区別は、きちんと守っています。	イ	17
ロ 区別しなければいけないと思うが、面倒だからしない。	ロ	24
ハ すぐ近くで、道がきれいな時などは時々内ばきで外出する。	ハ	47
ニ 殆んど気にしないで、区別していません。	ニ	13
29 自習時間中や、少し早く授業が終った時隣室で授業をしている時或は図書室で周囲の人が読書をしている時、どんな態度をとりますか。	29	
イ 殆んど無言で静かにしている。	イ	30
ロ 時には、周囲を忘れて大声を出すことがあるが気付けば静かにします。	ロ	64
ハ 殆んど周囲は気にしたことはありません。無頓着でした。	ハ	6
30 下校時に、先生や職員・友人に対して「さようなら」と挨拶しますか。	30	
イ 大抵は、します。	イ	69
ロ 先生にはしますが、他の人にはしないことが殆んどです。	ロ	5
ハ 特に親しい人の間だけします。他はなんとなくしません。	ハ	25
ニ 挨拶など大して気にしていません。殆んどしません。	ニ	1
31 あなたにとって運動会・文化祭などの行事とは	31	
イ ないほうがよいと思うもの。	イ	4
ロ 学校が教育的見地から行うもの。	ロ	3
ハ 授業がなくなるからよいと思うもの。	ハ	12
ニ 手軽に楽しむためのもの。	ニ	27
ホ 自分達で計画し、準備して、努力して行うもの。	ホ	53
	無答	1
32 運動会・文化祭などの行事について、どう思いますか。	32	
イ さばれたら、さぼりたいと思う。	イ	5
ロ たいして、おもしろくないが参加する。	ロ	11
ハ 当日だけ参加して楽しみたい。	ハ	17

ニ	当日だけでなく、めんどうな準備やあとしまつもしなければなら ないと思う。	ニ	25
ホ	めんどうな準備あとしまつをするのも楽しみになると思う。	ホ	42
		無答	1
③③	運動会・文化祭などの行事の内容について	③③	
イ	もっと準備して、建設的な内容を、増やすとよい。	イ	52
ロ	現状のままでよい。	ロ	25
ハ	もっと遊びの要素を増やすとよい。	ハ	18
ニ	しなくてもよい。	ニ	5
		無答	1
③④	生徒会について	③④	
イ	なくてもよいと思う。	イ	13
ロ	あったほうがよいと思う。	ロ	42
ハ	なくては困ると思う。	ハ	44
		無答	1
③⑤	生徒会の役員について	③⑤	
イ	自分のためになるから、やってもよい。	イ	9
ロ	みんなのためになるから、やってもよい。	ロ	5
ハ	おもしろそうだからやってもよい。	ハ	5
ニ	自信がないから、やりたくない。	ニ	33
ホ	勉強にさしつかえるからやりたくない。	ホ	4
ヘ	クラブにさしつかえるからやりたくない。	ヘ	4
ト	意義を認めないからやりたくない。	ト	7
チ	めんどうだからやりたくない。	チ	19
リ	その他	リ	13
		無答	3
③⑥	学校集会などで一斉にどこかへ集合する場合あなたはどうしま すか。	③⑥	
イ	時間が来れば、自分から卒先して集合する。	イ	54
ロ	たいていは誰かに催促されるまで動きません。	ロ	7
ハ	時と場合によって、ちがいます。	ハ	40
*③⑦	放課後のクラブ活動に参加している人だけ答えて下さい	*③⑦	
	クラブに参加している理由は何ですか。		
イ	手軽に楽しむため。	イ	26
ロ	体力をつけるため。	ロ	35
ハ	教養を身につけるため。	ハ	6
ニ	努力して上達したいため。	ニ	32
ホ	友人関係を得るため。	ホ	26
ヘ	その他	ヘ	18

無答 31 %

※38 放課後のクラブ活動に参加していない人だけ答えて下さい

※39

クラブに参加していない理由は何ですか。

イ 体力的に自身がないから。

イ 7

ロ 家が遠いから。

ロ 3

ハ 自分のやりたいものがないから。

ハ 8

ニ 勉強にきしつかえるから。

ニ 7

ホ 親が反対するから。

ホ 1

ヘ 興味がないから。

ヘ 7

ト その他

ト 8

無答 71

39 受験対策を、どの程度授業に入れてほしいと思いますか。

39

イ できるだけ入れてほしい。

イ 31

ロ ある程度入れてほしい。

ロ 58

ハ あまり入れなくてよい。

ハ 8

ニ 絶対に入れないほうがよい。

ニ 3

無答 1

40 学校生活の意義で、あなたが一番重要と思っているのは何ですか。

40

イ 学問と教養を身につけるため。

イ 37

ロ 将来大学へ入学するため。

ロ 12

ハ 青年期の健全な交友関係を深め、より充実した楽しみを持つため。

ハ 48

無答 3

(その3) 社会生活

41 乗物の中で老人や体の不自由な人に席をゆずりますか。

41

イ ゆずる。

イ 69

ロ 知らぬ顔をしている。

ロ 11

ハ ゆずりたいと思うが恥ずしくて立てない。

ハ 19

無答 2

42 乗物の中で子供(6.7才ぐらいまで)に席をゆずりますか。

42

イ ゆずる。

イ 29

ロ 子供には席をゆずる必要はないと思う。

ロ 55

ハ ゆずるべきだと思うが立てない。

ハ 16

無答 1

43 全然知らない人にちよっとぶつかったりして迷惑をかけた時「すみません」又はそれに類することばを言いますか。

43

イ 言う。

イ 90

ロ 言うべきだと思うが恥ずしくて言えない。

ロ 7

ハ 知らない人には言わなくてもよいと思う。

ハ 3

無答 1

(44) 知らない人に何かしてもらった時「ありがとう」又はそれに類することばを言いますか。	(44)		
イ 言わない。	イ	6%	
ロ 言うべきだと思うが何となく言えない。	ロ	7	
ハ 知らない人で、それきりだから言わなくてもすむと思う。	ハ	1	
ニ 言う。	ニ	69	
(45) 買物をしたら店員に対し	(45)		
イ 客も利益を受けるのだから「ありがとう」と言うのがよい。	イ	65	
ロ 利益を得るのは店の者だけであるから客は「ありがとう」という必要はない。	ロ	17	
ハ 店の人を知っている場合だけ「ありがとう」と言えばよい。	ハ	18	
(46) 家でテレビやラジオやステレオをかける時、近所の人の迷惑を考えて音量を調整しますか。	(46)		
イ する。	イ	68	
ロ 特に音を小さくしようとはしない。	ロ	30	
ハ 他の人も楽しいはずだから音をしばる必要はないと思う。	ハ	2	
(47) 商店で店員がすでに一人の客を相手にしていたり、自分より前に待っている人がいたら	(47)		
イ 前の人がすむまで待つ。	イ	95	
ロ 待っていたら先を越されると思うからすきがあったら店員に話しかける。	ロ	4	
	無答	1	
* (48) 人と話している時、自分が何か言いたくなったら	* (48)		
イ 相手が終るまで聞く。	イ	75	
ロ 途中をさえぎって自分が話す。	ロ	18	
ハ 相手と同時に話し出したら「どうぞ」と先をゆずる。	ハ	51	
(49) 乗物に乗る時子供が前へ飛び出して先に乗ろうとするのは	(49)		
イ 子供だから許されるべきだ。	イ	30	
ロ 子供だからと言って許される事ではない。	ロ	83	
	無答	2	
(50) 子供が社会的エチケットを知らない事があるのは	(50)		
イ 子供には社会的礼儀をわかまえる能力はないからそのままにしておくのがよい。	イ	4	
ロ このような事は親が教育すべきだ。	ロ	91	
ハ このような事を教育するのは親ではなく学校である。	ハ	4	
	無答	1	

51 知らない人がちょっと困っている時	51	
イ 助力してあげる事がある。	イ	57
ロ 助力してあげたいが恥しくて出来ない。	ロ	28
ハ 知らない人の事などどうでもよいと思う。	ハ	14
	無答	1
52 道路や公共の場所で音楽等の放送がやかましく行なわれている事は	52	
イ よくない事でやめるべきだ。	イ	30
ロ やかましいと思うのは間違っている。がまんすべきだ。	ロ	4
ハ 音量を小さくすればやってもよい。	ハ	60
ニ 皆楽しめるはずだから大いにやればよい。	ニ	5
	無答	1
53 民主主義や自由とはどんな事だと思いますか。	53	
イ 自分自身が他人の事など考えず勝手な事をすればよい。その結果困る者が出てもそれは弱者だから弱者はがまんすべきだ。	イ	9
ロ 各自が公共のおきてや常識にしたがって行動してはじめて皆の自由がある。	ロ	87
	無答	3
*54 ある特定の宗教を	*54	
イ 信じている。	イ	12
ロ 信じていない。	ロ	45
ハ 無関心である。	ハ	45
ニ 宗教について本を読んで理解しようとしている。	ニ	17
ホ 特に信じていないがある宗教の活動に何となく参加している。	ホ	11
55 他人の宗教に対し	55	
イ ばからしい事だと思う。	イ	23
ロ 他人の宗教は批判すべきでなく尊重すべきだと思う。	ロ	73
	無答	4
56 寺院や教会に入ったら	56	
イ 帽子はかぶったままでよい。	イ	13
ロ 敬意を表わすため帽子は取るべきだ。	ロ	86
	無答	2
57 佛教徒であるのにわざわざ国外のキリスト教会で結婚式をあげるのは	57	
イ ロマンチックですてきた。	イ	7
ロ 宗教に不忠実でよくない事だ。	ロ	13
ハ どうでもよい事だ。やったってよい。	ハ	79
	無答	2

＊58 日本で英語が日本人向けの商品に盛んに使われているのは

- イ 別に気にしない。
- ロ 感情的にいやだ。
- ハ 使い方や品物の事等わからなくて困る。
- ニ 高級に見える。
- ホ 日本は国際的にならねばならぬからこれはよい事だ。
- ヘ こんな事をすれば外国人から笑われる。

＊58

イ	54 %
ロ	24
ハ	28
ニ	15
ホ	5
ヘ	20

＊59 テレビ等の広告に外国人が出てくる事について

- イ 心有る外国人から笑われる。
- ロ 国際化という事から好ましい事だ。
- ハ すてきだと思う。
- ニ 別に気にしない。
- ホ とてもいやだ。

＊59

イ	6
ロ	2
ハ	7
ニ	93
ホ	5

＊60 これからの日本は

- イ 他国をぎせいにしても経済的国力の発展をはかるべきだ。
- ロ 他国と協調し共存・共栄をはかるべきだ。
- ハ 発展途上国に技術援助をはかるべきだ。
- ニ 国民生活を多少ぎせいにしても経済力を発展させるべきだ。
- ホ 生活環境をよりよくし、道徳や文化を高めるべきだ。
- ヘ 日本の個有文化を失わないようにすべきだ。

＊60

イ	8
ロ	64
ハ	42
ニ	6
ホ	75
ヘ	71

Ⅲ 調査結果について

A 統計

	1 年			2 年			3 年			全 学 年			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	%
人数	93	43	136	98	36	134	94	35	129	285	114	399	100
1 イ	38	27	65	31	22	53	29	15	44	98	64	162	41
ロ	23	6	29	31	7	38	31	8	39	85	21	106	27
ハ	1	2	3	8	1	9	5	2	7	14	5	19	5
ニ	29	8	37	26	6	32	28	10	38	83	24	107	27
無答	2	0	2	2	0	2	1	0	1	5	0	5	1
2 イ	7	1	8	10	3	13	10	3	13	27	7	34	9
ロ	60	23	83	62	22	84	56	23	79	178	68	246	62
ハ	20	19	39	18	6	24	20	7	27	58	32	90	23
ニ	1	0	1	6	4	10	3	2	5	10	6	16	4
無答	5	0	5	2	1	3	5	0	5	12	1	13	3

	1 年			2 年			3 年			全 学 年			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	%
人数	93	43	136	98	36	134	94	35	129	285	114	399	100
イ	21	21	42	13	9	22	11	2	13	45	32	77	19
ロ	38	13	51	42	21	63	42	16	58	122	50	172	43
3 ハ	23	7	30	27	6	33	23	14	37	73	27	100	25
ニ	11	2	13	14	0	14	18	3	21	43	5	48	12
無答	0	0	0	2	0	2	0	0	0	2	0	2	1
イ	25	23	48	14	16	30	15	8	23	54	47	101	25
ロ	38	10	48	44	13	57	41	10	51	123	33	156	39
4 ハ	20	8	28	26	7	33	22	14	36	68	29	97	24
ニ	10	1	11	12	0	12	16	3	19	38	4	42	11
無答	0	1	1	2	0	2	0	0	0	2	1	3	1
イ	34	17	51	20	12	32	19	5	24	73	34	107	27
* ロ	40	18	58	28	14	42	27	13	40	95	45	140	35
5 ハ	19	9	28	13	7	20	17	8	25	49	24	73	18
ニ	83	34	117	78	27	105	75	28	103	236	89	325	81
無答	0	1	1	6	2	8	5	1	6	11	4	15	4
イ	3	3	6	4	2	6	1	3	4	8	8	16	4
ロ	66	32	98	63	22	85	59	21	80	188	75	263	66
6 ハ	12	5	17	21	8	29	19	6	25	52	19	71	18
ニ	6	3	9	7	3	10	10	3	13	23	9	32	8
無答	6	0	6	3	1	4	5	2	7	14	3	17	4
イ	1	0	1	5	1	6	5	1	6	11	2	13	3
ロ	35	15	50	42	14	56	35	10	45	112	39	151	38
7 ハ	43	23	66	35	19	54	40	20	60	118	62	180	45
ニ	12	5	17	14	1	15	14	4	18	40	10	50	12
無答	2	0	2	2	1	3	0	0	0	4	1	5	1
イ	6	3	9	7	2	9	7	2	9	20	7	27	7
* ロ	3	1	4	4	0	4	6	1	7	13	2	15	4
8 ハ	66	29	95	48	21	69	50	22	72	164	72	236	59
ニ	57	31	88	66	22	88	55	26	81	178	79	257	64
ホ	19	9	28	19	8	27	20	7	27	58	24	82	20
イ	6	1	7	11	2	13	6	0	6	23	3	26	7
ロ	28	8	36	17	10	27	20	14	34	65	32	97	24
9 ハ	41	24	65	42	18	60	45	15	60	128	57	185	46
ニ	18	10	28	28	6	34	22	6	28	68	22	90	23
無答	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0
イ	3	1	4	4	1	5	2	1	3	9	3	12	3
10 ロ	3	0	3	5	1	6	2	1	3	10	2	12	3

	1 年			2 年			3 年			全 学 年			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	%
人数	93	43	136	98	36	134	94	35	129	285	114	399	100
10 ハ ニ 無答	46	29	75	55	27	82	47	21	68	148	77	225	56
	41	13	54	34	6	40	43	12	55	118	31	149	37
	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0
11 イ ＊ ロ ハ ニ 無答	32	20	52	29	18	47	23	10	33	84	48	132	33
	52	27	79	50	26	76	47	14	61	149	67	216	54
	21	6	27	10	6	16	16	2	18	47	14	61	15
	20	6	26	33	5	38	31	14	45	84	25	109	27
	2	0	2	2	0	2	2	0	2	6	0	6	2
12 イ ロ ハ ニ 無答	3	7	10	1	7	8	4	3	7	8	17	25	6
	7	4	11	7	5	12	5	2	7	19	11	30	8
	15	20	35	15	11	26	16	7	23	46	38	84	21
	67	12	79	74	13	87	67	23	90	208	48	256	64
	1	0	1	1	0	1	2	0	2	4	0	4	1
13 イ ロ ハ ニ 無答	25	17	42	31	16	47	31	12	43	87	45	132	33
	5	1	6	9	0	9	10	2	12	24	3	27	7
	45	21	66	42	18	60	37	16	53	124	55	179	45
	9	1	10	9	0	9	8	4	12	26	5	31	8
	9	3	12	7	2	9	8	1	9	24	6	30	8
14 イ ロ ハ ニ 無答	6	2	8	12	0	12	7	2	9	25	4	29	7
	31	26	57	28	15	43	30	19	49	89	60	149	37
	13	4	17	7	12	19	8	4	12	28	20	48	12
	41	11	52	47	9	56	41	8	49	129	28	157	39
	2	0	2	4	0	4	8	2	10	14	2	16	4
15 イ ロ ハ ニ 無答	29	12	41	24	9	33	20	6	26	73	27	100	25
	14	9	23	21	8	29	24	10	34	59	27	86	22
	12	9	21	12	4	16	18	5	23	42	18	60	15
	36	11	47	36	13	49	27	12	39	99	36	135	34
	2	2	4	5	2	7	5	2	7	12	6	18	5
16 イ ロ ハ ニ 無答	24	16	40	26	9	35	23	15	38	73	40	113	28
	51	20	71	59	23	82	51	16	67	161	59	220	55
	5	1	6	3	1	4	5	0	5	13	2	15	4
	8	6	14	8	2	10	8	2	10	24	10	34	9
	5	0	5	2	1	3	7	2	9	14	3	17	4
17 イ ロ ハ ニ	5	12	17	0	7	7	3	7	10	8	26	34	9
	38	3	41	40	5	45	38	6	44	116	14	130	33
	25	19	44	36	18	54	38	19	57	99	56	155	39
	22	9	31	21	5	26	15	2	17	58	16	74	19

	1 年			2 年			3 年			全 学 年			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	%
人数	93	43	136	98	36	134	94	35	129	285	114	399	100
17 無答	3	0	3	1	1	2	0	1	1	4	2	6	2
イ	15	8	23	20	5	25	15	7	22	50	20	70	18
ロ	27	21	48	28	18	46	20	12	32	75	51	126	32
18 ハ	44	13	57	43	12	55	50	15	65	137	40	177	44
ニ	4	0	4	7	1	8	7	0	7	18	1	19	5
無答	3	1	4	0	0	0	2	1	3	5	2	7	2
イ	19	17	36	19	8	27	20	11	31	58	36	94	24
ロ	22	16	38	21	9	30	23	7	30	66	32	98	25
19 ハ	20	4	24	15	9	4	8	7	15	43	20	63	16
ニ	28	5	33	42	9	51	41	9	50	111	23	134	34
無答	4	1	5	1	1	2	2	1	3	7	3	10	3
イ	51	28	79	47	23	70	54	23	77	152	74	226	57
ロ	7	2	9	13	3	16	11	2	13	31	7	38	10
20 ハ	10	10	20	13	8	21	6	3	9	29	21	50	13
ニ	12	2	14	18	2	20	15	6	21	45	10	55	14
無答	13	1	14	7	0	7	8	1	9	28	2	30	8
イ	24	13	37	30	17	47	20	17	37	74	47	121	30
ロ	47	10	57	46	12	58	45	12	57	138	34	172	43
21 ハ	22	20	42	22	7	29	22	6	28	66	33	99	25
ニ	0	0	0	0	0	0	7	0	7	7	0	7	2
イ	28	16	44	37	17	54	36	14	50	101	47	148	27
* ロ	100	17	117	42	20	62	33	18	51	175	55	230	58
22 ハ	30	18	48	31	11	42	30	10	40	91	39	130	33
ニ	14	3	17	19	3	22	16	4	20	49	10	59	15
無答	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
イ	42	23	65	25	10	35	20	16	36	87	49	136	34
ロ	38	14	52	58	22	80	56	17	73	152	53	205	51
23 ハ	12	5	17	15	4	19	17	2	19	44	11	55	14
無答	1	1	2	0	0	0	1	0	1	2	1	3	1
イ	73	42	115	71	35	106	40	32	72	184	109	293	73
24 ロ	13	1	14	23	0	23	38	2	40	74	3	77	19
ハ	7	0	7	4	1	5	16	1	17	27	2	29	7
イ	50	30	80	34	20	54	40	19	59	124	69	193	48
ロ	13	7	20	19	2	21	14	7	21	46	16	62	16
25 ハ	5	3	8	14	0	14	8	0	8	27	3	30	8
ニ	2	0	2	1	0	1	2	0	2	5	0	5	1
ホ	23	3	26	29	14	43	30	9	39	82	26	108	27

	1 年			2 年			3 年			全 学 年				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	%	
人数	93	43	136	98	36	134	94	35	129	285	114	399	100	
26	イ	34	30	64	26	24	50	34	23	57	94	77	171	43
	ロ	23	7	30	33	7	40	20	7	27	76	21	97	24
	ハ	27	3	30	38	4	42	40	5	45	105	12	117	29
	無答	9	3	12	1	1	2	0	0	0	10	4	14	4
27	イ	34	28	62	48	21	69	29	17	46	111	66	177	44
	ロ	34	24	58	20	22	42	28	20	48	82	66	148	37
	ハ	33	10	43	31	8	39	37	8	45	101	26	127	32
	ニ	12	0	12	11	1	12	22	1	23	45	2	47	12
無答	3	1	4	3	1	4	2	0	2	8	2	10	3	
28	イ	13	6	19	18	4	22	22	6	28	53	16	69	17
	ロ	27	4	31	24	11	35	21	8	29	72	23	95	24
	ハ	42	33	75	36	19	55	36	20	56	114	72	186	47
	ニ	11	0	11	20	2	22	15	1	16	46	3	49	13
29	イ	17	11	28	33	11	44	36	11	47	86	33	119	30
	ロ	66	32	98	60	25	85	49	23	72	175	80	255	64
	ハ	10	0	10	5	0	5	9	1	10	24	1	25	6
30	イ	68	34	102	64	27	91	52	29	81	184	90	274	69
	ロ	4	5	9	6	1	7	3	1	4	13	7	20	5
	ハ	19	4	23	28	8	36	36	5	41	83	17	100	25
	ニ	2	0	2	0	0	0	3	0	3	5	0	5	1
31	イ	3	1	4	8	0	8	1	2	3	12	3	15	4
	ロ	4	1	5	5	1	6	2	0	2	11	2	13	3
	ハ	10	3	13	11	7	18	14	2	16	35	12	47	12
	ニ	32	6	38	23	3	26	35	10	45	90	19	109	27
	ホ	42	32	74	50	24	74	41	21	62	133	77	210	53
無答	2	0	2	1	1	2	1	0	1	4	1	5	1	
32	イ	1	1	2	6	1	7	10	1	11	17	3	20	5
	ロ	8	2	10	14	4	18	8	7	15	30	13	43	11
	ハ	22	5	27	16	1	17	23	2	25	61	8	69	17
	ニ	19	15	34	30	12	42	18	4	22	67	31	98	25
	ホ	43	20	63	32	18	50	32	21	53	107	59	166	42
無答	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3	0	3	1	
33	イ	37	29	66	58	22	80	41	20	61	136	71	207	52
	ロ	23	10	33	17	11	28	26	12	38	66	33	99	25
	ハ	28	2	30	15	1	16	23	1	24	66	4	70	18
	ニ	3	1	4	8	1	9	3	2	5	14	4	18	5
無答	2	1	3	0	1	1	1	0	1	3	2	5	1	

	1 年			2 年			3 年			全 学 年				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	%	
人数	93	43	136	98	36	134	94	35	129	285	114	399	100	
34	イ	11	3	14	20	0	20	16	2	18	47	5	52	13
	ロ	43	17	60	40	13	53	37	18	55	120	48	168	42
	ハ	38	23	61	38	22	60	41	15	56	117	60	177	44
	無答	1	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1	2	1
35	イ	8	3	11	9	2	11	9	4	13	26	9	35	9
	ロ	6	1	7	5	2	7	5	1	6	16	4	20	5
	ハ	5	1	6	6	0	6	4	4	8	15	5	20	5
	ニ	26	30	56	23	18	41	22	11	33	71	59	130	33
	ホ	1	2	3	5	3	8	1	2	3	7	7	14	4
	ヘ	10	0	10	3	0	3	3	0	3	16	0	16	4
	ト	3	0	3	12	0	12	9	2	11	24	2	26	7
	チ	17	3	20	17	5	22	26	7	33	60	15	75	19
	リ	14	3	17	13	6	19	13	4	17	40	13	53	13
	無答	3	0	3	5	0	5	2	0	2	10	0	10	3
36	イ	55	19	74	52	19	71	47	22	67	154	60	214	54
	ロ	6	1	7	6	4	10	9	0	9	21	5	26	7
	ハ	32	23	55	40	13	53	37	13	50	109	49	158	40
* 37	イ	27	15	42	18	16	34	21	7	28	66	38	104	26
	ロ	50	13	63	34	14	48	20	9	29	104	36	140	35
	ハ	1	4	5	4	4	8	9	1	10	14	9	23	6
	ニ	47	19	66	25	11	36	19	8	27	91	38	129	32
	ホ	30	10	40	20	12	32	26	5	31	76	27	103	26
	ヘ	22	12	34	18	6	24	10	5	15	50	23	73	18
	無答	13	7	20	35	8	43	44	16	60	92	31	123	31
* 38	イ	3	2	5	10	3	13	6	2	8	19	7	26	7
	ロ	3	1	4	3	1	4	4	1	5	10	3	13	3
	ハ	3	2	5	10	3	13	10	4	14	23	9	32	8
	ニ	2	0	2	7	2	9	11	7	18	20	9	29	7
	ホ	0	0	0	2	0	2	0	0	0	2	0	2	1
	ヘ	2	1	3	9	3	12	10	4	14	21	8	29	7
	ト	5	2	7	9	1	10	13	1	14	27	4	31	8
	無答	81	37	118	63	28	91	55	20	75	199	85	284	71
39	イ	18	8	26	36	11	47	39	10	49	93	29	122	31
	ロ	57	29	86	53	25	78	45	24	69	155	78	233	58
	ハ	15	5	20	2	0	2	9	1	10	26	6	32	8
	ニ	3	0	3	6	0	6	1	0	1	10	0	10	3
	無答	0	1	1	1	0	1	0	0	0	1	1	2	1

	1 年			2 年			3 年			全 学 年				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	%	
人数	93	43	136	98	36	134	94	35	129	285	114	399	100	
40	イ	30	17	47	41	16	57	29	14	43	100	47	147	37
	ロ	7	2	9	19	3	22	13	4	17	39	9	48	12
	ハ	52	22	74	36	16	52	48	17	65	136	55	191	48
	無答	4	2	6	2	1	3	4	0	4	10	3	13	3
41	イ	63	38	101	58	30	88	58	29	87	179	97	276	69
	ロ	12	1	13	13	2	15	12	2	14	37	5	42	11
	ハ	16	3	19	25	4	29	22	4	26	63	11	74	19
	無答	2	1	3	2	0	2	2	0	2	6	1	7	2
42	イ	25	25	50	18	16	34	16	14	30	59	55	114	29
	ロ	50	14	64	65	9	74	62	18	80	177	41	218	55
	ハ	16	4	20	13	10	23	16	3	19	45	17	62	16
	無答	2	0	2	2	1	3	0	0	0	4	1	5	1
43	イ	85	41	126	86	36	122	77	34	111	248	111	359	90
	ロ	7	1	8	8	0	8	10	1	11	25	2	27	7
	ハ	1	1	2	4	0	4	4	0	4	9	1	10	3
	無答	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3	0	3	1
44	イ	0	3	3	9	0	9	10	0	10	19	3	22	6
	ロ	6	1	7	9	2	11	9	0	9	24	3	27	7
	ハ	0	0	0	2	0	2	2	0	2	4	0	4	1
	ニ	87	39	126	78	34	112	3	35	38	168	108	276	69
45	イ	67	25	92	59	24	83	55	29	84	181	78	259	65
	ロ	11	9	20	17	10	27	19	2	21	47	21	68	17
	ハ	15	9	24	22	2	24	20	4	24	57	15	72	18
46	イ	64	31	95	71	23	94	60	22	82	195	76	271	68
	ロ	26	12	38	26	13	39	29	13	42	81	38	119	30
	ハ	3	0	3	1	0	1	5	0	5	9	0	9	2
47	イ	88	38	126	96	34	130	89	35	124	273	107	380	95
	ロ	5	4	9	2	1	3	5	0	5	12	5	17	4
	無答	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	2	2	1
* 48	イ	71	32	103	76	25	101	70	27	97	217	84	301	75
	ロ	22	9	31	18	9	27	10	3	13	50	21	71	18
	ハ	44	29	73	49	24	73	36	20	56	129	73	202	51
49	イ	16	8	24	19	3	22	12	2	14	47	13	60	30
	ロ	70	35	103	79	33	112	82	33	115	231	101	332	83
	無答	7	0	7	0	0	0	0	0	0	7	0	7	2
50	イ	5	0	5	3	1	4	8	0	8	16	1	17	4
	ロ	82	42	124	91	35	126	80	34	114	253	111	364	91

	1 年			2 年			3 年			全 学 年			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	%
人数	93	43	136	98	36	134	94	35	129	285	114	399	100
50 ハ	4	1	5	3	0	3	6	1	7	13	2	15	38
無答	2	0	2	1	0	1	0	0	0	3	0	3	1
51 イ	56	1	57	60	18	78	62	31	93	178	50	228	57
ロ	27	15	42	27	16	43	25	3	28	79	34	113	28
ハ	10	27	37	10	2	12	5	1	6	25	30	55	14
無答	1	0	1	1	0	1	2	0	2	4	0	4	1
52 イ	28	10	38	38	4	42	30	11	41	96	25	121	30
ロ	3	1	4	4	1	5	5	0	5	12	2	14	4
ハ	54	31	85	51	30	81	53	22	75	158	83	241	60
ニ	8	1	9	5	0	5	3	2	5	16	3	19	5
無答	0	0	0	0	1	1	3	0	3	3	1	4	1
53 イ	8	2	10	11	0	11	14	2	16	33	4	37	9
ロ	82	39	121	86	36	122	72	31	103	240	106	346	87
無答	3	0	3	0	0	0	8	2	10	11	2	13	3
54 イ	11	6	17	14	2	16	12	1	13	37	9	46	12
* ロ	39	19	58	49	14	63	40	18	58	128	51	179	45
ハ	46	23	69	44	14	58	34	18	52	124	55	179	45
ニ	10	5	15	26	7	33	15	5	20	51	17	68	17
ホ	12	5	17	12	6	18	5	3	8	29	14	43	11
55 イ	26	9	35	25	5	30	16	11	27	67	25	92	23
ロ	65	34	99	71	29	100	68	24	92	204	87	291	73
無答	2	0	2	2	2	4	8	0	8	12	2	14	4
56 イ	12	9	21	9	5	14	12	3	15	33	17	50	13
ロ	80	34	114	88	30	118	80	30	110	248	94	342	86
無答	1	0	1	1	1	2	2	2	4	4	3	7	2
57 イ	5	2	7	2	7	9	7	3	10	14	12	26	7
ロ	9	8	17	15	4	19	12	3	15	36	15	51	13
ハ	79	33	112	81	24	105	70	29	99	230	86	316	79
無答	0	0	0	0	1	1	5	0	5	5	1	6	2
58 イ	48	18	66	53	25	78	51	22	73	152	65	217	54
ロ	21	13	34	32	6	38	16	9	25	69	28	97	24
* ハ	25	20	45	27	12	39	16	10	26	68	42	110	28
ニ	19	5	24	20	6	26	7	2	9	46	13	59	15
ホ	4	2	6	5	1	6	6	1	7	15	4	19	5
ヘ	36	13	49	13	6	19	9	3	12	58	22	80	20
59 * イ	9	1	10	5	2	7	4	3	7	18	6	24	6
ロ	2	0	2	0	0	0	4	0	4	6	0	6	2

	人数	1 年			2 年			3 年			全 学 年			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	%
		93	43	136	98	36	134	94	35	129	285	114	399	100
＊	ハ	4	5	9	4	5	9	5	3	8	13	13	26	7
59	ニ	78	35	113	84	34	118	72	34	106	234	103	337	93
	ホ	2	4	6	7	1	8	2	2	4	11	7	18	5
	イ	12	2	14	6	1	7	7	2	9	25	5	30	8
	ロ	62	33	95	67	30	97	45	20	65	174	83	257	64
＊	ハ	43	21	64	49	19	68	25	11	36	117	51	168	42
60	ニ	5	1	6	7	0	7	8	1	9	20	2	22	6
	ホ	80	37	117	79	35	114	48	21	69	207	93	300	75
	ヘ	60	36	96	73	34	107	57	25	82	190	95	285	71

B 説 明

(その1) 家庭生活 (1)

- (1) ・ 家族が一諸に暮していることについてその意識を認めていると思われるものが、全体として大体 70 % 近くいる。
- これを男女別にみれば、女子の方が男子より比較的その比率が高いようである。また、男子の方は女子の方よりも家庭をきゅうくつと感ずるものの率が高い。
 - 学年別には何も特色はないが、やはり女子は男子よりも家庭の生活を求めているようである。
- (2) ・ 家族員の精神的安らぎと生活意欲の回復とを求めて営まれる家庭生活を考えているものが全体の 60 % 余りを占めている。
- 家族員相互の人間的情の触れ合いに注目しているものが全体の 20 % 余りである。
 - これを全体としてみると、男子も女子も大部分が家庭生活の本質を意識しているようであり、妥当な考えであると思う。
- (3)(4) ・ 「父の日」「母の日」に対する感覚はそれぞれの項については大体等しい。
- どちらかといえば、「母の日」が「父の日」よりも有意義であるとするものが、少し多いようである。
 - 「父の日」に対しても「母の日」に対しても、女子の方が男子よりもその有意義を感じていると思われる。特に「母の日」に対しては顕著である。
 - 低学年ほど「父の日」「母の日」とともに有意義を感じているようである。
- (5) ・ 父親はやはり父親としてかけがえのない大事な人であるとして尊敬しているものが、男子も女子も同じ程度で、しかも全体としては絶対多数を占めている。これは当然なことであろうが、まことに喜ぶべきことと思う。

- ・ あとの見解はそれぞれの現実の姿を通してそれぞれに分れているのは、やむを得ないと思われる。

(6) ・ 愛情深い心をもつ、やさしい母親像をのぞんでいるものが全体の 66 % を占めている。しかも男子も女子も同じ程度にのぞんでいる。

- ・ そのような母親を低学年ほどのぞんでいるように思われる。
- ・ 次に、父の仕事に温かい理解を示す母親像をのぞむものが全体の 18 % であり、男子も女子も同じ程度にのぞんでいる。
- ・ 要するに、母親は家庭においては、家族員の人間的つながりの中心となつてほしいとの願いが強くあらわれているように考えられる。

(7) 「意見をのべて注意を促すが、子どもの判断をつとめて尊重する」が全体の 45 % である。

- ・ 次に「厳格ではあるが、子どもの理解を求めようとする態度を忘れない」が全体の 38 % である。
- ・ 非常に厳格な態度とか子どもの判断に任す甘やかす態度の如きものは少なく、親子の精神的つながりとか理解を通しての態度をのぞんでいることは、まことに妥当なところである。

(8) ・ 「自分の人生の将来を考えて、現在の自分のつとめに一生けんめいにはげむ」が全体の 64 % である。しかも男女とも同じ程度である。

- ・ 次に「日々の生活において親に心配・手数をかけないように努力する」が全体の 59 % である。しかも男女とも同じ程度である。
- ・ この項はいくつ〇印をつけてもよいものである。
- ・ 要するに、大部分の生徒が最も妥当と思われる見解をもっていると理解される。

(9) ・ 「親孝行、親不孝どちらともいえない」が全体の 46 % で、男女同じ程度である。

- ・ 次に「少しは孝行な子どもであると思う」が全体の 24 % で、男女同じ程度である。また「親不幸な子どもであると思う」が全体の 23 % で、男女同じ程度である。
- ・ 一般に、親孝行とか親不孝、これは自己反省においてハッキリとしない場合が多いのではなかろうかと思われる。
- ・ 孝行な子どもと親不孝な子どもが同じ程度にいるが、その孝行、不孝の内容がわからないわけであるが、これは勉学など身の将来についての今の「悩み」の心境を表わしたものともしえないであろうか。

(10) ・ 「兄弟姉妹がいると互いに相談にのったり、はげまし合ったりするので多い方がよい」とするものが全体の 56 % で、比較的女子の方が多い。

- ・ 次に「別に何とも思っていない」とするものが全体の 37 % で、比較的男子の方が多い。
- ・ 要するに、少ないほどよいという考えは僅少である。やはり兄弟姉妹がいると互いに若き生き生きとした力を求め合うことができること勿論なり。そして協同的な社会感覚が多いことは健全なことであると思う。

(松 扉)

(その1) 家庭生活 (2)

老人問題については、同居と別居と半々位で、同居の方がやや賛成が多い。同居も別居も経済的条件によると答えたものが、男子の方に多かった。敬老ということについては、特に意識を持たず、人間は皆老化していく共通の運命を感じるのみという項目を選んだ者は高学年に多く、女子よりも男子の方に多かった。しかし70%の者が、老人をいたわり、長寿を祈り、感謝する気持がある。敬老の日にお祝いをすると答えたものは35%でやや少ないが、核家族が多い現状では年寄との接触が少ないせいであろう。

家庭で何か相談したい時には母親に相談するというのが女子では一番多く、男子はその都度かわるのが一番多い。いずれも母親、兄弟姉妹よりも父親に相談するものが非常に少ない。これは子供の教育について一番多く発言するのは母親という点からもうなずける。又父親に対して話にくいと感じている生徒は全体で37%いるが、3年生では44%と多くなっている。これは年齢の違いから共通の理解が得られにくいという理由が多い。断絶がおこらないよう父親ともしっかり話し合える親子関係のあり方が望まれる。

アンケート⑦は、将来の家庭観としてどういう考えを持っているかという事を見たのであるが、妻も結婚後は仕事を持つというのに賛成なのは男子はわずか3%なのに対し、女子は23%で、家事に専念するというのは、男子が40%、女子は12%しかいなく、男女の開きが相当あるのは注目すべきである。しかし全体として、必要があれば妻も仕事を持ち、夫も家事に協力するというのが一番多いのは、そういう家庭が多くなっている現状を示すものであろう。

家の手伝いについては、しかたなしにするのが44%と多く、これは男子の方に特に多い。女子は手伝いたいがひまがあまりないと答えたものが多い。男子においては、家族の一員としての自覚がややたりないように見うけられる。

家族に対する朝の挨拶についての問いに対して素直にできると答えたものは $\frac{1}{4}$ 程度で、男子より女子の方が挨拶する者が多く、男子はいちいち口に出してまで挨拶しようとは思わないというのが最も多かった。

家庭の夕食は揃って食べるものが67%で、雰囲気を楽しんでいるものが女子に多く、男子は揃って食べないのでのびのびと自由でよい、揃って食べるとうるさいことが多いと思うと答えたものが合わせて27%、これは女子の2倍の数にあたる。個人の生活も大事だが、夕食時の団らんにおいて、家族とのふれ合いをもっと大切にしたいものである。

(阜)

(その2) 学校生活 (1)

20 朝の挨拶が気軽にできるのは全体の30%に過ぎない。「殆んどしたこともないし、しようとも思わない」と答えた3年生の数名の男子には、やや反抗的なものさえ感じられる。が、大部分の生徒は「した方がよい」とわかってはいるようである。

22 基本的な礼儀に対して、殆んど無頓着な生徒が、各学年通しておよそ15%程ある。

24 本校における昼食時間帯がやや遅くずれていること、また、生徒会役員の会合などが、昼食時間中に行われることが多かったりすることもある。定時刻におべんとうを食べることの出来ない生徒がかなりあっても止むを得ないところではあるが、全体としては73%故大部分が定刻にとっている。しかし、3年生では1,2年生に比べて比較的、不規則である数が多くなっ

ている。

25 常に家からべんとうを携えてくる生徒は約半数で、他はパン、外食、など日によって変る生徒などが、その他をしめるが、発育盛りで食慾旺盛な生徒のこと故多様な食事を重ねてする生徒がもう少し沢山あるのではないかと予想していたのであるが、以外に少なかった。特に女子は皆無であったことは、もっともなこととうなずける。

26 落ちているごみを拾うのは、矢張り女生徒の方が相対的には多いようである。そうしたことに、一向に気のつかない人、またこの間に無答の人併せると 30 % を越えることになる。

27 イ、ロ、併せた凡そ 80 % の生徒は、とに角、真面目に掃除をする意志を持っている生徒であるが、同時に、ハ、ニ、の合計が 44 % ということは、できればやりたくないのが本音である生徒が、かなりあるのが現状のようである。

28 内・外の区別を、きちんと守っているのは、17 % しかないものであるから校舎も汚れるわけである。

29 全く周囲のことを気にしないうっかり組が 6 % 程もある。

30 帰りの挨拶は朝のそれよりは、比較的行われているようであるが、それでも、特定の親しい人にだけ、する生徒もかなりあるようである。

以上を通じて言えることをもう一度要約するならば

- 学校の生活の中での常識的な基本礼儀に対して全く知らないのか、故意に無視するのかしている生徒が一部にある。
- どうしたらよいのか、よくわきまえてはいるが、気恥ずかしさなどから、抵抗を感じて素直に行動に表現できない生徒がかなりある。
- 基本的なしつけ、礼儀が身についていない生徒にとって、もしその中に本当にそのことについて今迄知る経験を持たなかった為の生徒があるとすれば、このアンケートの実施自体が指導上の大きな役割を果たすことになったと思う。

(米 谷)

(その 2) 学 校 生 活 (2)

生徒会に関する項では、生徒会の存在意義を認める者が大半をしめ、生徒会役員の希望者も少なからず存在する。行事に対しても極めて積極的、自主的な姿勢の感じられる者が過半数を占め、集会時にも卒先して集合するものが多数をしめる。

課外の部活動では、参加している者が大半で、参加している者の理由、あるいは参加していない者の理由は様々で、特に目立った理由はない。

学校生活の意義では、将来大学へ入学するためという者は、ごく少数で、学校生活本来の意義を認めている。

受験対策は、授業中にある程度やってほしいという意見が大半をしめている。

学年による差異、あるいは、男女別による差異は、ほとんど見られないが、強いて取り上げる

ならば、行事に対する積極的な意見が女子の方に、やや多く見られるのが特徴である。

(倉)

(その3) 社会生活 (1) (2)

41) 43) 44) 礼儀の必要は理性ではわかるが、「恥しくて出来ない」というのが正直な答であろう。

しかしこの「恥しさ」とは何であろうか、という事は考察に値することである。

45) 知らない人に礼儀を行なうのは恥しいが、知っている人に対しては礼儀を行なうという傾向を示している。

又店員に対しては「ありがとう」という必要はない。という考え方もかなり一般的だと思われる。

46) 52) 音に対する寛容の考えが表われている。他の公害に対し住民意識は高まっても音の害に対して現在も何ら意識が高まらないとの関係があるであろう。

42) 49) 子供に対する寛容の思想が見られる。しかし一方では子供は社会的わがままが許されるべきではない。という考えも見られる。他社会との比較があればおもしろいであろう。

50) ロに答が集中しているのは注目してよい。

47) 48) イに答が多いのは妥当な考え方を表わしている。しかし現実の生活では必ずしもそのようには行っていない。この点は48)のロにかなりの数が出ている事が裏付けている。

53) イにわずかではあるが答が出ているのは考慮に値する。

54) 55) 56) 予期した通りの答えである。何か解決を求めたい気持、無宗教、反宗教が混在している。日常のエチケットという事よりより多く青年に関心を抱かせる問題であろう。

57) 58) 59) 現在の日本の精神的風土をよく反映している。日本のコマーシャル(広告一般)が理性にうったえ説明的であるよりも、感情にうたえるタイプである事、外国や外国語というものが装飾的要素をもって受けとられる事が多い事と関係しているように思われる。

(樫 本)

Ⅳ おわりに

○ この調査における調査項目が適正にして妥当なものであったか否かについて反省を加えている。とに角、単なる「事実」の調査ならば案外かんたんにしかも容易に実施できるが、「意識」の実態調査となると、なかなかむづかしいことが多い。

○ 生徒の抱く「意識」の実態調査においては、少なくとも次の2つの点に注意を払うことが重要なことであり、また必要なことであると思う。

- ・ 最も効果的な調査をするためには、どのような調査項目を、どのように設定するか。
- ・ 生徒の側からいえば、自己の考えとか価値観などをふまえて自己の意識をハッキリと表

現できるものでなければならない。

- この調査にあらわれた結果をみて、生徒のもついろいろの意識は、考え方の傾向とか価値観などを通して、健全であり妥当的に安定しているように思える。
- 人間は「組織」のなかに入っていくと、情緒的で豊かな常識に根ざす人間関係を指向する力をややともすると失って、自己を正しく見出せないことが多い。何よりも自己を正しく強く見出すことが大切である。
- この調査は第1回の意識調査であって、十分な経験と用意とをもって行なわれたとは思っていない。しかし、その結果はそれなりに生活指導上参考になることもあると思う。
- 教育が抽象的にならないで、いつも生き生きとした現実足場をもつために、今後もこのような各種の調査を行って教育の効果をあげる資料にしたいと思う。